

第2学年〇組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日(〇)第〇校時

授業者 教諭

- 1 主題名 自らを高めるために
- 2 ねらい 向上心、個性の伸長について、進路を素材に自分の将来について、将来の生き方を他人との考えを比較しながら、多面的・多角的に話し合いを通して、自己を見つめ、これからの生活の中で、向上心を持つようとする態度を育てる。

教材名 「十一月」(出典：東京書籍「中学道徳 2 明日をひらく」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

「自己を見つめる」とは、様々な行為をする主体である自己について深く向き合うことである。また、一人ひとりとは考え方や個性が違うように、それぞれにはその人のよさがあるが、そのよさは中々自分では見つけにくいものである。ここでは自分ではなかなか見つけにくい自分のよさを生徒相互の信頼関係を基盤として高め合い伝え合っていくことを通じて、よりよい人間関係をつくりながら、そのよさに気づき、お互いに成長させていかせたるために本主題を設定した。

指導に当たっては、教材の中の物語としてではなく、自分自身のこととして進路に向けた前向きな態度を育てていきたい。また、自分の考えだけでは一方向な考え方に過ぎないということに気づかせ、他人の考え方をすることで多面的、多角的に物事を考え、生徒自身が自分を見つめながら、自分のよさに気づいて前向きに生きていこうとする態度を育てていきたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

本校では入学後、町内小学校2校から入学し、これまでと違った環境、新たな集団の中で1年間を過ごした。その集団生活をよりよくしていくために、宿泊学習などの取組を行った。2年生になり、キャリア教育の一環として、総合的な学習の時間を活用して、1学期には社会体験チャレンジ事業を町内29か所の事業所の協力のもと実施し、自己の進路や将来についての学習を行った。2学期には上級学校について学習し、今後は高校の先生を招いて出前授業を行う予定である。これらの学習を踏まえ自分の得意なこと、目指しているものに気づき、進路に向け前向きに努力していこうとする意識を強くもってほしいと考えている。

本学級の生徒は、非常に仲が良く、男女分け隔てなく助け合う雰囲気を持っている。授業中に教え合いや学び合いを行う姿勢が育ちつつある。しかし、自分に自信がなく自分のよさを気づきにくく、級友による「ありがとう」や「すごい」などのプラスの声かけをマイナスと感じとってしまい、周りと壁をつくってしまう生徒もいる。そこで本授業を通して、自分を見つめ、自分だけの考え方に固執するのではなく、他人の意見を聞き、考えを深めることによって自分の考えを明確にし、多面的、多角的な考えを通して、自分の知らない自分のよさに気づき前向きに生きていこうとする態度を育てていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公の中学3年生「亜樹」が文化祭委員として仕事し、同じ文化祭委員である佐々木と後片付けをしている最中に進路について話しているものである。亜樹は「高校生活は将来のための準備期間である」と考え、一方、佐々木は「高校生活を捨てる」「その時にしかできないことを一生懸命する」という考えを持っており、進路について多角的な考えを持つことのできる資料である。

この教材を通して、物事の考え方は一面的ではなく多面時、多角的であることを理解させ、将来の生き方に関して深く考え、向上心を持つようとする態度を育てることがねらいである。

4 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点及び評価の視点(☆) 「考え、議論する道徳授業」(主体的で対話的な深みのある学習)へのアプローチ(◎)
導入	1 本時の内容について知る。 「将来についてのアンケート」	・意外と多い(少ない)	・教材の内容「進路」について考える流れにすぐ入れるようにする。 ・アンケートの活用をする。
展開	2 教材の範読を聞く。 3 道徳的な問題について考え、話し合う。 (条件や状況を整理する) (1) 佐々木はどのような気持ちで亜樹に言ったのか。 (2) 佐々木の意見や考えを聞いて、亜樹はどんなことを考えているのだろうか。	・教材の内容を読み取る。 ・文化祭委員は大変だった。 ・佐々木は手伝ってくれない。 ・明日のテストのことで頭がいっぱい。 ・亜樹に自分のよさについて気づいてほしい ・自分のよさを活かして高校生活を送ってほしい ・亜樹に言われ過ぎて言い返している。 ・高校生活を大事にしてほしい ・自分は間違っていない ・本当に自分の考えがあっているのかわからなくなった ・私はできない ・佐々木だからできると思う ・佐々木の言葉によって少し安心している	・教材を準備する。 ・登場人物等、簡潔に内容を紹介する。 ・亜樹の「文化祭委員」「焦り」「後悔」など状況について紹介する。 ・亜樹の考えていること「自分には何もない」→やっと見つけた「自分の将来が見つけられそう」を理解させ、発問(1)につなげる。 ◎佐々木の言葉で揺れ動いている亜樹の心情を班で話し合わせる。それをもとに班を超えて話し合う。
終末	4 これまでの自分を振り返り、授業で学んだことやこれからの生き方について考える。 (感想を記入させる)		☆本時を振り返り、自己を見つめ向上心をもって生活しようと考えている。

5 他の教育活動との関連

事前指導	事前アンケート、Q-Uテスト(2回)の活用
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名「十一月」 <p>向上心、個性の伸長について、進路を素材に自分の将来について、将来の生き方を他人との考えを比較しながら、多面的・多角的に話し合うことを通して、自己を見つめ、これからの生活の中で、向上心をもとうとする態度を育てる。</p>
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・高校出前授業を行う。 ・進路に関する新聞記事等を朝の会や帰りの会で取り扱う
家庭との連携	学級通信で、生徒の感想を紹介し、互いの気づきや考えについて広く理解できるようにする。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自分の将来について、将来の生き方を他人との考えを比較しながら考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自己を見つめ、これからの生活の中で、向上心をもとうとする態度を身につけようとしている。

7 板書計画

